

第5章 まとめ

1. 人権全般について

[問1 人権問題への関心度]

- ・「多少関心がある」と答えた人の割合が 63.7%で最も高く、「非常に関心がある」(14.0%)と合わせた『関心がある』人の占める割合は 77.7%となっており、関心度は増加傾向にあるといえる。なお、性別にみると女性(80.4%)の方が男性(74.1%)よりも高くなっている。

[問2 市民の人権意識の高まりについての評価]

- ・「高まっている」(19.7%)と答えた人の方が「低くなっている」(8.2%)よりも上回っているものの、「あまり変わらない」(69.6%)と答えた人が大半を占める。

[問3 関心のある人権問題]

- ・新型コロナウイルス感染症流行の影響を受けてか、「新型コロナウイルス感染者にかかわる問題」(60.2%)をあげた人の割合が最も高くなっている。以下、「障害のある人にかかわる問題」(57.8%)、「インターネットやSNSによる人権侵害にかかわる問題」(57.5%)、「子どもにかかわる問題」(49.2%)、「女性にかかわる問題」(45.2%)、「高齢者にかかわる問題」(45.1%)などの順となっているが、「インターネットやSNSによる人権侵害にかかわる問題」は過去の調査結果よりも割合が増加しており、関心が非常に高まっている傾向がうかがえる。

[問4 人権侵害された内容]

- ・自分の人権が侵害されたと思った人は全体の 29.7%で、具体的な内容としては「パワーハラスメント(職務上の地位などを背景にした嫌がらせ)」(11.5%)が最も高く、次いで「根拠のない悪い噂、他人からの悪口、かげ口」(10.9%)の順となっている。

[問5 結婚相手を考える際に気になること]

- ・「人柄や性格」(82.1%)が他に比べて突出している。以下、「趣味や価値観」(51.5%)、「経済力」(37.6%)、「仕事に対する理解と協力」(34.7%)、「家事・育児に対する理解と協力」(32.2%)などが続く。

[問6 人権に関する法律の認知状況]

- ・平成28年(2016年)に施行された人権に関する3つの法律の認知状況について、「知っている」と答えた人の割合は、障害者差別解消法が 13.7%、ヘイトスピーチ解消法は 14.4%、部落差別解消推進法は 19.9%となっている。

2. 人権にかかわる問題

(1) 女性の人権について

[問7 女性の人権が尊重されていないと思うこと]

- ・「男女の固定的な役割分担意識や行動(「男は仕事、女は家事・育児」など)(45.9%)が最も高く、次いで「女性の社会進出を困難にしている就労環境等のシステム(育児休業、保育所制度等)が十分整備されていないこと」(44.0%)、「職場における差別待遇(採用、昇格、仕事内容、賃金など)」(41.0%)などの順となっており、割合の増減はあるものの、過去の調査結果とほぼ同様の傾向となっている。

[問 8 女性の人権を守るために必要だと思うこと]

- ・「女性が働きやすい社会システムをつくる」(65.5%) が他に比べて突出している。以下、「男女平等に関する教育を充実させる」(38.9%)、「男性による暴力など、女性への犯罪に対する取り締まりを強化する」(33.0%) などが続くが、「男女平等に関する教育を充実させる」は割合に増加傾向がみられ、必要性を感じる人が次第に増えていると思われる。

(2) 子どもの人権について

[問 9 子どもの人権が尊重されていないと思うこと]

- ・「親が身体的、心理的（過度の放任や無視を含む）、性的に虐待する」(55.8%) が最も高く、次いで「子ども同士が「暴力」や「仲間はずれ」、「無視」などのいじめをしたり、させたりする」(42.7%)、「親が、言うことを聞かない子どもに、しつけのつもりで体罰を加える」(42.5%)、「周りの人が、いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする」(38.6%)、「親が、自分の所有物のように子どもを扱う（服装や食べ物などを含め、生活全体にわたり思い通りにしようとする）」(36.1%) などの順となっており、割合の増減はあるものの、過去の調査結果とほぼ同様の傾向となっている。

[問 10 子どもの人権を守るために必要だと思うこと]

- ・「家庭内の人間関係の安定」(38.1%) が最も高く、次いで「教師の人間性、資質を高める」(34.7%)、「家庭で親が子どもにしつけをする（特に善悪や道徳など）」(32.2%)、「人や動物への思いやりの心をはぐくむ」(32.1%) などの順となっており、割合の増減はあるものの、過去の調査結果とほぼ同様の傾向となっている。

(3) 高齢者の人権について

[問 11 高齢者の人権が尊重されていないと思うこと]

- ・「ひとり暮らしなどの高齢者をねらう詐欺や悪徳商法」(47.5%) が最も高く、次いで「介護者などが、身体的、心理的、経済的等の虐待を行う」(37.2%)、「介護を必要とする高齢者の介護体制（施設の充実等）が、十分に整備されていない」(33.7%)、「生活に必要な情報がひとり暮らしの高齢者に十分に伝わりにくい」(31.0%) などの順となっているが、「介護を必要とする高齢者の介護体制（施設の充実等）が、十分に整備されていない」は過去の調査結果よりも割合が減少している。

[問 12 高齢者の人権を守るために必要だと思うこと]

- ・「高齢者が暮らしやすい環境にする」(62.4%) が最も高く、次いで「介護を必要とする人の介護体制や、単身の高齢者のための救急医療体制を充実させる」(47.7%)、「高齢者に配慮した防犯・防災対策を進める」(34.9%) などの順となっており、割合の増減はあるものの、過去の調査結果とほぼ同様の傾向となっている。

(4) 障害のある人の人権について

[問 13 障害のある人の人権が尊重されていないと思うこと]

- ・「交通機関、道路、公園、店舗、建物、情報機器などの利用が不便なこと」(50.5%)、「人々の障害の

ある人に対する理解が足りないこと」(49.2%)の2項目が他に比べて割合が高い傾向が続いている。

[問 14 障害のある人の人権を守るために必要だと思うこと]

- ・「道路、駅、交通機関、建物など生活環境面での障壁除去（バリアフリー化）を推進する」(51.6%)が最も高く、次いで「障害のある人の就職機会を確保するとともに、障害の程度に応じた職業訓練を充実させる」(44.0%)、「保健・福祉施策（リハビリテーション、居宅福祉サービスや福祉機器、福祉施設の整備）を充実させる」(35.0%)、「障害のあるなしにかかわらず、学校教育は小さい時から一緒に受ける」(34.3%)などの順となっており、割合の増減はあるものの、過去の調査結果とほぼ同様の傾向となっている。

(5) 同和問題について

[問 15 同和問題を初めて知った経緯]

- ・「小学校の授業で習った」(32.3%)が最も高く、次いで「父母や兄弟姉妹など家族から聞いた」(29.4%)の順となっており、過去の調査で同和問題を知るきっかけが学校の授業と答えていた人は、小学校での授業が多くを占めていたと思われる。

[問 16-1 同和地区出身者に対する周りの人の差別意識]

- ・「差別意識を持っている人は少しいと思う」と答えた人の割合が42.9%で最も高く、「差別意識を持っている人はいると思う」(29.1%)と合わせた『差別意識を持っている人はいる』が占める割合は72.0%となっている。

[問 16-2 同和地区出身者に対する自身の差別意識]

- ・「差別意識を持っていない」(54.9%)と答えた人が、全体の半数を超えている。なお、「差別意識を持っている」(2.1%)と「差別意識を少し持っている」(19.3%)を合わせた『差別意識を持っている』人が占める割合は21.4%となっている。なお、性別にみると『差別意識を持っている』人は男性(20.8%)、女性(21.9%)で、いずれも同程度となっている。

[問 17 同和問題に関して人権が尊重されていないと思うこと]

- ・「結婚問題で周囲が反対する」(50.1%)が突出しており、前回の調査結果と同様の傾向となっている。

[問 18 同和問題の解決に対する考え]

- ・「問題解決のために自分も何かしたいと思うが、何をすればよいのか分からない」(29.7%)、「自分ではどうしようもない問題だが、誰かしかるべき人に解決してほしいと思う」(28.6%)がそれぞれ3割程度、「同和問題（部落差別）のことは知らないの分からない」(12.3%)が1割程度となっている傾向は、過去の調査結果と同様となっている。

[問 19 同和問題の解決に大切だと思うこと]

- ・「市民一人ひとりが同和問題を正しく理解し、問題解決のために努力する」(50.6%)、「学校で人権に関する教育を行う」(48.2%)の2項目が他に比べて高くなっている。

(6) 日本に居住する外国人の人権について

[問 20 日本に居住する外国人の人権に関する考え]

- ・「日本人と同じように人権は守られるべきだと思う」(43.6%) が最も高くなっている傾向は、数値の増減を直接比較することはできないものの、過去の調査結果と同様となっている。

[問 21 日本に居住する外国人の人権を守るために必要だと思うこと]

- ・「日本人にも外国人にも互いの情報をより多く提供する」(42.2%) が最も高く、次いで「日本の文化や社会事情を外国人に理解してもらう」(39.5%)、「日本人の意識や考え方を外国人に理解してもらう」(30.9%) などの順となっており、割合の増減はあるものの、過去の調査結果とほぼ同様の傾向となっている。

(7) エイズ患者やH I V感染者の人権について

[問 22 エイズ患者やH I V感染者の人権が尊重されていないと思うこと]

- ・「感染していることを本人に無断で他人に伝えられる」(30.6%) が最も高く、次いで「根拠のない悪い噂を流される」(30.4%) などの順となっており、割合の増減はあるものの、過去の調査結果とほぼ同様の傾向となっている。

[問 23 エイズ患者やH I V感染者の人権を守るために必要だと思うこと]

- ・「学校でエイズ教育を充実させる」(46.5%)、「エイズ患者・H I V感染者のプライバシー保護を徹底する」(42.8%) の 2 項目が他に比べて高くなっており、割合の増減はあるものの、過去の調査結果とほぼ同様の傾向となっている。

(8) インターネットやSNSによる人権侵害について

[問 24 インターネットやSNSに関して人権が尊重されていないと思うこと]

- ・「他人を誹謗中傷する表現を掲載している」(77.6%) が突出しており、以下、「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっている」(38.3%)、「差別を助長する表現を掲載している」(37.1%) と続く傾向は、割合の増減はあるものの、過去の調査結果と同様となっている。

(9) L G B T (性的少数者) の人権について

[問 25 L G B T (性的少数者) の人権が尊重されていないと思うこと]

- ・「差別的な言動(悪口、いやがらせなど)を受ける」(34.3%) が最も高く、次いで「心の性とは異なる振る舞い(服装、言葉遣いなど)を強要される」及び「同性のパートナーとの関係を認めてもらえない(病院で手術の立ち合いが認められないなど)」(いずれも 24.0%) の順となっている。なお、「分からない」と答えた人が 24.3%と、他の人権問題に比べて高くなっている。

[問 26 市が実施している L G B T (性的少数者) の支援策「パートナーシップ宣誓制度」の認知度]

- ・「知っている」と答えた人は 16.3%で、「知らない」(79.1%) 人が大半を占めている。

[問 27 L G B T (性的少数者) の人権を守るために必要だと思うこと]

- ・「学校における教育を推進する」(41.1%) が最も高く、次いで「専門相談窓口を充実させる」(32.6%)

の順となっている。なお、「分からない」と答えた人が 20.8%と、他の人権問題に比べて高くなっている。

3. 人権に関する学習や情報について

[問 28 市が行っている人権に関する啓発活動の認知状況]

- ・「市政だよりへの人権啓発記事の掲載」(49.3%)が、過去の調査結果と同様、他に比べて抜きん出ている傾向が続いている。

[問 29 市が行っている人権に関する啓発活動の認知経路]

- ・「市政だより」(57.1%)が、過去の調査結果と同様、他に比べて抜きん出ている傾向が続いている。

[問 30 市が行っている人権に関する啓発活動への参加経験]

- ・「市政だよりの人権啓発記事の講読」(30.7%)、「テレビの人権啓発CMの視聴」(27.4%)の2項目が他に比べて高くなっている。なお、「特にない」(41.4%)と答えた人が4割を占めている。

[問 31 「人権文化のまちづくり」の推進に必要な取り組み]

- ・「学校教育の中で、人権を大事にする心を育てる」(56.6%)が最も高く、以下、「差別や偏見につながる慣習や社会の仕組みを改善する」(49.7%)、「家庭の中で、人権を大事にする心を育てる」(40.9%)と続く傾向は、割合の増減はあるものの、過去の調査結果と同様となっている。